

地域おこし協力隊通信 (No. 24) 種子島から世界へ



「こわん冷やかときく、魚をば捕るじえもなし、なにようし海へ入ちえつとやちゅく？」
サーフィンをしなない人からすれば、何が楽しいのか理解に苦しむ光景かと思えます。

■サーフィン

遠い外洋で吹いた風が海面を乱し波紋となります。そしてその波紋が幾重にも重なりウネリとなり、長い旅をはじめます。波はその旅の終わりに散りゆく最期の姿。刻々と変わるその最期の姿に、板を重ね合わせるのがサーフィンです。

■種子島はサーファアの憧れ

種子島の波の豊かさは日本屈指です。理由は①島であること②島のカタチ③島の位置。四方からウネリが押し寄せ、カタチは南北に細長いひょうたん型。ウネリの向き、風向きに適したポイントが数多く存在し、たとえ風が変わっても、太平洋、東シナ海への移動距離が短いので容易に立ち回る事ができます。島の位置は南西諸島に属し、氣候が温暖なので一年中サーフィンを楽しむ事が出来ます。また、台風からのウネリを受けやすいこともあり、サーファア憧れの島となっています。

■第2回種子島プロ

日本一のサーファアを決める大会が種子島で開催されます。昨年の種子島大会にはオリンピックをを目指す強化指定選手が20人以上出場しました。

年間チャンピオンは全8戦の総合ポイントで決まります。種子島は第6戦になります。

スピード、テクニク、波の取り合い、駆け引きなど、日本最高峰の闘いが種子島を舞台に繰り広げられます。

■中種子町出身、須田姉弟

中種子町からは須田那月(なつき、23歳)プロが出場します。怪我を克服して、先月末に行われた大会では決勝まで進みました。優勝(日本一)には惜しくもあと一歩届きませんでした。堂々の準優勝でした。弟である喬士郎(きょうしろう、16歳)君も前回大会で快進撃を遂げ、プロ資格を勝ち取るまであと一歩でした。ふたりとも調子が良さそうなので、種子島大会では須田姉弟の活躍に期待が膨らみます。

町民の皆さんの応援をよろしくお願ひします。

■大会概要

9月27日〜30日、竹崎海岸(南種子) 詳しくは9月号広報誌、役場ホームページをご確認下さい。(松田)

月にいちばん近い島を満喫 初開催ジロ・デ・種子島 2018

「月にいちばん近い島」種子島を一周するロングランイベント『ジロ・デ・種子島2018』が初開催され、約200人の選手が参加しました。

このサイクリング大会はタイムレースではなく、自分のペースで種子島一周(半周コースも有)する大会で、参加選手は、午前7時に西之表港をスタート(半周コースは午前7時半)し、浦田・現和・太陽の里公園・宇宙センター・島間港・龍星館を通過し、西之表港へ戻るコースで、アップダウンの少ないならかなコースを走りながら、美しい海やサトウキビ畑、日本最大のロケット発射場など、様々な風景を堪能しました。

また、島内各所にはエイドステーション(飲み物などを提供する場所)も設けられたのですが、大会側が設置したエイドステーションだけでなく、地元の方のご自宅前や各公民館などでも選手を歓迎しようとして種子島の特産品や、地元のお菓子など、おもてなしがされ、島民の温かさに、心に残る初大会となりました。



油久げんき村周辺広場



西之表港スタート